別記様式１　実施計画書

北海道函館高等支援学校

Ⅰ　本校における「総合的な探究の時間」の目標

　探究の見方・考え方を働かせ、地域や社会の人、もの、ことに関わる体験活動を含む総合的な学習を通して、自己の在り方生き方を考えながら、自ら課題を発見・解決し、社会に貢献することができる。

Ⅱ　「総合的な探究の時間」で探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力

１　知識及び技能	２　思考力、判断力、表現力等	３　学びに向かう力、人間性等
・再生可能な取組についての理解を深める、まとめることができる。 ・本校でできる具体的な取組を調べることができる。 ・探究での取組について、その意義や価値が、自らの課題解決や成果であると理解することができる。	・再生可能な取組について、解決する具体的な課題に根拠をもって設定し、計画を立案できる。 ・課題解決に必要な情報を、幅広く収集することができる。 ・収集した情報を関連付けて整理し、分析することができる。 ・根拠を示しながら、課題解決に向けた考えを分かりやすくまとめることができる。	・それぞれの強みを生かしながら、課題解決しようとする。 ・他者と協働しながら、探究課題の解決に向け、積極的に取り組もうとする。 ・再生可能な取組について、学校の特色を生かしながら、社会参画・貢献しようとする。

Ⅲ　「総合的な探究の時間」の単元計画の概要

目標を実現するにふさわしい探究課題	イ	持続可能で再生を意識しながら、学校の特色を生かした取組		
単元目標	４学科協働のカフェ運営を中心に、学校で不要とされる物から課題を把握し、その課題解決に向けての取組の中で、新たな形として再生できる仕組みを検討し、自身の生活と結び付けながら、学校および地域の一員として、自ら社会に参画・貢献することができる資質・能力を育成する。			
月	主な内容		探究の過程	時数
4	昨年度の振り返りと、ＳＤＧｓに関連した今後の学習を検討		課題の設定	4
5	昨年度の学習からの再生チョークの他、どのような持続可能な取組が考えられるか		情報の収集	2
6	すでに取組んでいる学校や企業を調べて整理する		整理・分析	2
7	再生チョークについて、実際に制作してみる		まとめ・表現	3
8	再生チョークの課題は何か考える		課題の設定	2
9	課題解決のための方法を調べる		情報の収集	2
	収集した情報を元に、試作のための方法を整理する。		整理・分析	2
10	制作した再生チョークについて、利用者の感想から、改善の方向性を見出し、実現する方法や計画を検討する。		まとめ・表現	2
11	学校内やカフェ運営において出る不要物には何があるのかを探り、再生できるものはないかを考える		課題の設定	2
12	課題解決のための方法を調べる		情報の収集	4
1	収集した情報をもとに、外部との連携に向けて整理する		整理・分析	4
2	試作をするとともに、外部に向けて取組を発信する		まとめ・表現	4
3	次年度に向けての課題を検討する		課題検討	2

(注)　１　「目標を実現するにふさわしい探究課題」とは、目標の実現に向けて学校として設定し、生徒が探究に取り組むためのものであり、横断的・総合的な学習としての性格をもち、探究の見方・考え方を働かせて学習することがふさわしい、教育的に価値のある諸課題のこと。

２　「目標を実現するにふわさしい探究課題」の欄には、探究課題を簡潔に記載するとともに、次のア～オに該当するものの記号を入力すること。

ア　国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な学習
イ　地域や学校の特色に応じた課題
ウ　生徒の興味・関心に基づく課題
エ　職業や自己の進路に関する課題
オ　その他

３　「探究の過程」の欄には、「課題の設定」、「情報の収集」、「整理・分析」、「まとめ・表現」のいずれかを入力すること。

別記様式２　実施報告書

北海道函館高等支援学校

Ⅰ　学習の様子

【課題の設定】１０月～１２月

・９月までに実施したインタビューやアンケートの結果に基づき、再生チョークに関しての課題を整理するとともに、試作を繰り返しながら、課題の再設定を行った。

【情報の収集】１月～２月

・企業の方によるZoomでの講話を通して、リサイクル商品の安全性やものづくりについての知識を広げるとともに、再生チョークづくりに関する疑問点も解消することができ、設定した課題への理解が深まった。

【整理・分析】２月

・課題解決に向けた取組を「今すぐに自分たちで実践できること」、「長期的に取り組むこと」、「収集した情報の発信方法」に分類して整理した。また、校内カフェの営業時には、再生チョークに関する報告動画を紹介し、視聴者からの感想や意見を参考に取組の具体化を図った。

【まとめ・表現】２月

・学校の特色を生かした持続可能で再生を意識した取組について、企業と連携して行ってきた成果等を普通科の他学年へ報告したことで、安全で再生可能な取組について改めて考えるきっかけとなった。

Ⅱ　探究活動の成果

・インタビューやアンケートの結果を基に、課題解決に向けた取組内容を整理する中で、「自分たちが作りたいものづくり」という視点から、「他者が求めるものづくり」という他者を意識した視点へと考えを深めることができた。

・「日本理化学工業株式会社」との関わりを通して、課題解決に必要な情報を幅広く収集・整理することができ、取組の充実につながった。

・カフェを利用する地域の方や企業との関わりを通して、その経験を学校の特色や将来の進路と結び付けて、働き続ける自分の姿を具体的に思い描き、自分の生活を考える様子が見られた。また、地域や社会の一員として、主体的に社会参画・貢献しようとする意識の向上にもつながった。

Ⅲ　今後に向けて

・質の高い探究的な学びを実現するために、学校の特色を生かしながら取り組んだことをどのように地域へ発信していくかを検討するとともに、再生可能な取組を吟味する必要がある。

・今年度の取組内容を次年度へどのように継承していくのかについて、学年単位だけでなく学科全体として計画的に進められるよう検討する。

・取組を広く周知するとともに、生徒の将来の進路と関連づけながら、外部との連携の在り方を模索する。

・ものづくりでは、安全な商品づくりを意識することが重要であるため、安全性に関する学習機会を積極的に設ける必要がある。